



## ○営業時間の変更について

令和6年11月29日(金) 15時まで営業

令和6年12月30日(月) 13時まで営業

令和7年1月6日(月)より通常営業

令和6年12月31日(火)～令和7年1月5日(日)まで休業

## 【温州みかん】\*下線が引いてあるものは重要防除です。必ず防除を行きましょう。

**収穫** 丁寧な収穫作業と貯蔵の管理を徹底しましょう。

貯蔵みかんの品質のバラつきをなくすため、果実の着色状況に応じて、2回以上に分けて収穫しましょう。

収穫適期を逃して、浮皮果にならないように注意して下さい。

**※収穫の目安** ○大津四号 ⇒ 完全着色  
○青島温州 ⇒ 8分色以上

### 果実管理

通常予措：コンテナ8分目ほどに軽く入れて、通気の良い貯蔵庫下屋等で10～15日間乾燥した空気にさらします。総量の5%程度の減量(しおれ)が目安です。(果皮がややしなびて弾力を持つ程度)

高温予措：着色促進と減酸を目的に、収穫直後に20℃で7日間果実を保温しておく。果実の傷からくる腐れが早いので、再度選果をしてから貯蔵・出荷をしましょう。

### 貯蔵

予措終了後、温度3～5℃・相対湿度85%を目安に貯蔵します。朝夕の換気と定期的に点検で腐敗果を取り除きましょう。また、0℃付近になると低温障害をおこすので、寒波時は貯蔵庫を密閉しましょう。

**病害虫防除等** 収穫後の12月下旬～1月中旬(厳寒期の散布は避けましょう)

**○ミカンハダニ** アタックオイル 60倍 1.66ℓ/水100ℓ 又は

**○カイガラムシ類** ハーベストオイル 60倍 1.66ℓ/水100ℓ 又は

スプレーオイル 60倍 1.66ℓ/水100ℓ

\* 散布量は10aあたり500～600ℓを目安に、たっぷり散布しましょう。

(病害虫多発生の主な原因は、密植と薬剤のかけムラです。)

## 【中晩柑】

防寒・鳥害対策のため、袋かけやネット被覆を実施しましょう。園地や品種により差がありますが、1月中旬までには終了するように作業しましょう。

## 【うめ】

**冬季剪定** 11月～12月

縮間伐と骨格作りを重視して主枝を配置し、内向枝・平行枝等の切除をします。

※ツボミを傷めないように、年内にノコギリ剪定(太い枝の処理)を終了させましょう。

1月下旬までに細部の剪定作業(整枝・剪定)を終えましょう。1年枝は全部取らず横から出ている弱い枝は残しておきましょう。

**病害虫防除** 12月下旬～1月上旬(開花前)

○カイガラムシ類・越冬病害虫 石灰硫黄合剤 10倍 10ℓ/水100ℓ

12月～1月上旬 休眠期(落葉後～萌芽前)

○コスカシバ フェニックスフロアブル200倍 樹幹部及び主枝に散布 開花期まで1回

## — 【キウイフルーツ】 —

**整枝剪定** 12月下旬～2月上旬(樹液の流動が始まる前に終了しましょう。)

一文字整枝を基本に主枝・亜主枝を明確にして、亜主枝は2～3m間隔で配置します。高樹齢樹は樹がいたむため亜主枝の更新は避けましょう。古い亜主枝でも葉数を確保し維持しましょう。

古い側枝(結果母枝)は先追いしないよう、亜主枝、主枝に近づける、切り戻し更新を行いましょ。

結果母枝は、充実した新梢と本年の結果枝を併用し配置します。春の風害を想定し、やや多めに残しましょう。大きい切り口にはトップジンMペーストを塗布しましょう。

**病害虫防除** 11月下旬～12月中旬

〇かいよう病 ICボルドー66D 50倍 2kg / 水 100ℓ

**土壌管理** 11月～2月

土壌改良剤として、苦土石灰の施用をしましょう。 100kg～200kg / 10a

## — 【お茶】 —

**老朽茶園の改植準備**

生産性の向上と良質茶の生産をはかるため、老朽茶園を改植することが必要です。

改植は抜根、天地返し、地ならしを計画的に行いましょう。その場合、石灰窒素をあらかじめ10aあたり80kg程度散布し、有機物の腐植化をはかりましょう。

農薬を使用する際は、適用作物・希釈倍数・使用回数・使用方法等の使用基準を遵守するとともに飛散防止に努め、ラベルをよく確認し、必ずラベルに基づいて使用しましょう。

### カメムシ情報（再掲載）

- ・夜行性のため、日没1時間後～、姿が最も多くみられます。夕方に見回しましょう。
- ・集合フェロモンで仲間を呼び寄せるため、園地で飛来を認めたら、直ちにネオニコチノイド系薬剤、合成ピレスロイド系薬剤で防除しましょう。
- ・無降雨条件では、ネオニコチノイド系薬剤、合成ピレスロイド系薬剤ともに残効期間は10～15日程度あることが調査により、明らかになっています。
- ・スタークル顆粒水溶剤等のネオニコチノイド系薬剤は、カメムシへの忌避効果も期待できませんが降雨量30～50mmでも効果が低下するため、降雨時には再散布が必要になる可能性があります。
- ・合成ピレスロイド系薬剤は、天敵類への影響も大きくハダニ類やカイガラムシ類の多発を招くことがあるので特に注意しましょう。
- ・農薬使用の際は、必ずラベル記載事項を確認し使用基準を遵守しましょう。

ネオニコチノイド系薬剤

スタークル顆粒水溶剤	前日	3回	2,000倍
ダントツ水溶剤	前日	3回	2,000～4,000倍
アクタラ顆粒水溶剤	14日	3回	2,000倍

合成ピレスロイド系

ロディー乳剤	7日	4回	2,000倍
テルスター水和剤	前日	3回	1,000～2,000倍